

オンラインシンポジウム「公害資料館がはたす役割と未来」
主催：科学研究費補助金基盤研究(C)「公害経験の継承に向けた
公害資料館の社会的機能の研究」(代表：清水万由子)
共催：公害資料館ネットワーク

「困難な過去」から「地域の価値」へ

2022年1月8日

よけもと まさふみ

除本 理史

(大阪市立大学)



除本理史 (2021) 「「困難な過去」から「地域の価値」へ：公害経験の継承をめぐる」(特集 公害資料館の現代的意義と課題)『環境と公害』50(3), 30-36

除本理史・佐無田光 (2020) 『きみのまちに未来はあるか？—「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書

水俣病事件 旅する

遠藤邦夫

MEMORIES OF AN ACTIVE

たどり着いた水俣で見たものは…かつての汚像することができない美しい海辺、そして…の正体より奇妙で歪んだ〈失敗〉と〈犯罪〉とが残っていた…

国書刊行会

まず最初に結論から

- 「困難な過去」を**価値に反転**させることで、分断を修復し、地域活性化につなげる (cf遠藤邦夫『水俣病事件を旅する』国書刊行会、2021⇒水俣病事件を「**文化遺産**」と捉える)
- 「困難な過去」をヘリテージ化するうえで、**公害資料館**の役割はきわめて重要である

「**困難な過去**」(大事故、戦争、災害など)も

「**地域の価値**」を構成しうる ※「地域の価値」:歴史、文化、コミュニティ、景観・まちなみ、自然環境などの「地域固有」とされる要素を踏まえつつ、集合的に構築された地域の「差異」「意味」(地域の面白さ、特質、地域がめざしている価値、など)、あるいはその構築プロセスのこと

- 人権・平和など普遍的価値の逆説的提示 (→深い学び)
普遍的課題を地域の文脈に位置づける
- 被害回復、復興のプロセスがストーリー価値を構成する ※ストーリー構築の意義:受け手の参加促進immersive、「自分ごと」化
- But「意味づけ」が立場によって分裂しやすい
⇒ **多様な立場をふくむ、未来志向の開かれた議論の場が必要** ⇒ **地域内での学びと共有** (=歴史解釈の共同生産)

【「**困難な過去**」の利用、効用】

- 教育、観光資源⇒よりよい社会をつくる(次スライド)
- (非物質的な)ストーリー価値をモノに付与する

「困難な過去/歴史 difficult history/ past」とその「効用」

「困難な歴史」を解釈(解説)(interpretation)
することの便益 (Rose, 2016, pp.48-62)

- 希望を醸成する
- 記念・祝賀・称揚⇒アイデンティティの創出(個人、集団)
- 社会的正義の擁護
- 喪に服すこと: 「死」に意味を与える。
歴史的な目印や伝承施設の開設は、遺族の悲しみを和らげる
- 「このようなことを繰り返してはならない」
と考える人を増やすことが、償いになる
(pedagogical reparation)



公害地域再生の事例

水俣「もやい直し」(1990年代~)の経験から
(除本・佐無田2020:2章)

■水俣市は典型的な「企業城下町」

・水俣病患者が、生命や健康を侵害されたことへの償いとして、チツソに対し正当な補償を求めた。

・しかし、多くの市民は、企業が衰退して生活がおびやかされることを心配。本来、多くの市民もメチル水銀の影響を受けた被害者だった。

・にもかかわらず、被害者と加害者との関係が、被害者と地域全体との対立関係におきかえられてしまい、住民同士が立場の違いによって反目させられることになった。

■公害による地域社会の崩壊を乗り越え、地域の再生をめざすため、当時の吉井正澄市長は「もやい直し」という標語をかかげた⇒水俣病の「前面化」、地域固有の価値

「もやい直し」の意義

(除本・佐無田2020:57-59)



〔地域の〕個性とは、他をもって代えることのできないその地域における価値です。ほかのことで代替できない価値です。・・・たった一つ、水俣にしかない個性があります。それが**公害の原点**と言われる**水俣病**ですね。・・・**これこそが水俣の個性だ**と思います。

ところが、この個性は今まで水俣市民を苦しめてきた、すごく強烈なマイナスの個性だったんですね。**これがまちづくりに役立つのか**と**だいぶ批判**されました。しかし私は、**逆だ**と**思っている**んですよ。(吉井正澄・元水俣市長)

① 教育旅行誘致 (除本・佐無田2020:63-68)

表-1 水俣市観光入込数 (1998年, 2017年) 単位:人

		(A) 1998年	(B) 2017年	A-B
湯の児地区	宿泊	123,666	38,025	85,641
	日帰	253,661	75,479	178,182
	計	377,327	113,504	263,823
湯の鶴地区	宿泊	12,622	6,046	6,576
	日帰	22,557	18,154	4,403
	計	35,179	24,200	10,979
その他地区	宿泊	49,166	39,054	10,112
	日帰	257,295	333,602	▲76,307
	計	306,461	372,656	▲66,195
宿泊計		185,454	83,125	102,329
日帰計		533,513	427,235	106,278
総計		718,967	510,360	208,607

注:1998年は出所資料中で観光入込数が最多の年。▲は負数(観光入込数の増加を示す)。

出所:「水俣市観光入込数(昭和57年~平成29年)」(水俣市経済観光課提供資料)より

減少傾向だが市人口2.5万人の20倍

- 水俣病の学習 (水俣市立水俣病資料館入館者数:2017年度は4万1250人) を観光振興と結びつける努力
- **環不知火プランニング**: 2017年度受入実績: 教育旅行が2292人, 視察研修が622人 (うち地域内宿泊がそれぞれ925人, 73人)
- **相思社**の2017年度受け入れは570人





甘夏のない人生なんて。

生産者グループきばる

[トップページ](#) [きばるについて](#) [生産者の紹介](#) [販売のこ](#)

② ガイアみな また/きばる

(除本・佐無田2020:68-73)



きばるのウェブサイトへようこそ！

熊本県水俣、芦北、御所浦で甘夏みかんをつくりつづける生産者団体です。

- 「**ガイアみなまた**」は、夏みかん(甘夏)の加工、販売などを手がけている。有限会社の形態をとるが、複数の家族による「共同体」。
- 甘夏を生産するのは「**生産者グループきばる**」。前身は「水俣病患者家庭果樹同志会」で、海で生計を立てられなくなった患者たちが甘夏生産に転換し、**減農薬・有機栽培**を開始(「水俣病被害者が加害者にならない」)。
- 樹園地は水俣市、芦北町、津奈木町、天草市にまたがり、これら2市2町の夏みかん生産量のうち「きばる」のシェアは6.2%(2017年収穫)。

- 甘夏の大口取引先は、相思社時代からの付き合いがある生活クラブ生協。生産者交流会で、「きばる」メンバーが水俣病について語りながら、共同購入を促す。減農薬栽培であるため、安心して皮まで食べられるというのもセールスポイントの1つ。 =生産者・消費者による「**学習コミュニティ**」をつくり、価値理解を促す
- 価格は類似の有機栽培品と比較して安いわけではないので、購入する側からみれば、**水俣病にかかわる甘夏の由来の「物語」**が付加価値になっているという面がある。
- 被害回復プロセスへの**参加**

おわりに:水俣市で開催された公害資料館 連携フォーラム(2016年12月)より

• 「学校」分科会

多くの生徒が加害企業チツソの従業員の子弟という状況で、どう公害を教えるか?⇒ チツソについては、公害を出した時代の幹部と今の従業員は違うということを明確にし、企業には「①社会に役立つもの(製品)を造る責任」「②家族を養うためのお金(生活費)を稼ぐ責任」「③世界の注目の中、環境に優しい生産活動のモデルとなる責任」「④利益の一部を水俣病補償にあてる責任」があるのだから、そこに誇りをもたせるようにする(公害資料館ネットワーク2017:70-75)

=被害者サイドの文脈だけではない、公害教育の一端

⇒ **評価軸のずらしによる過去(記憶)の活性化**(←→忘却される過去)

• 参加者の声

「水俣の中で、立場の違うといわれてきた方の話を直にきいてみたいと思い参加しました。『あの時のことは、こういうことだったのか』と自分史の中での多角的な感じ方の発見になってよかったです」(公害資料館ネットワーク2017:130)

⇒ このように多様な立場の参加者が交流し学ぶことは、水俣病事件に対するそれぞれのイメージを相互に提示しながら、**歴史に対する解釈を共同生産**(→**継続的に再生産**)する行為。こうした**不断の共同作業**を通じて「地域の価値」はつくられていく。=**公害資料館の役割**